

タカラバイオ株式会社 2024年3月期 第2四半期決算(補足資料)

1. 2024年3月期 第2四半期業績について

【決算短信9ページ】

(売上高)

- ・ 「試薬」は、一般研究用試薬は増加したものの、新型コロナウイルス検査関連試薬が大きく減少したことにより、前期比▲126億1,500万円(▲45.8%)減収の149億4,900万円となりました。
- ・ 「機器」は、主にPCR装置が減少したことにより、前期比▲2億8,200万円(▲40.7%)減収の4億1,100万円となりました。
- ・ 「受託」は、再生医療等製品関連受託、遺伝子解析/検査関連受託ともに減収となり、前期比▲4億8,000万円(▲15.1%)減収の27億200万円となりました。
- ・ 「遺伝子医療」は、レトロネクチン®を含む遺伝子治療薬製造補助剤(AM製品)の売上が減少したことから、前期比▲9,100万円(▲8.0%)減収の10億5,200万円となりました。
- ・ 以上により、売上高は、前期比▲134億7,000万円(▲41.3%)減収の191億1,600万円となりました。

(営業利益)

- ・ 売上総利益の減益に加え、研究開発費などの販売費一般管理費が増加したため、営業利益は、前期比▲94億6,000万円(▲87.0%)減益の14億1,000万円となりました。

2. 2024年3月期 通期業績予想の修正について

【決算短信10ページ】

【業績予想の修正に関するお知らせ】

(通期業績予想修正)

インフレの長期化や経済不況の影響等を受けて世界のライフサイエンス研究開発市場が低迷するとともに、製品やサービスの価格競争も激化していることから、当社の試薬・機器事業および受託事業(遺伝子解析受託)等の売上高が前回予想を下回る見込みです。これに伴い、他の利益項目についても前回予想(5月11日)を下回る見込みとなりましたので、通期の業績予想を修正しました。修正後の業績予想は次の通りです。

(1)前期比

(売上高)

- ・ 「試薬」は、一般研究用試薬は増収予想ですが、新型コロナウイルス検査関連試薬の大幅な減少により、全体では前期比▲331億3,300万円(▲50.3%)減収の327億9,200万円となる予想です。
- ・ 「機器」は、主にPCR装置が減少し、前期比▲6,100万円(▲4.5%)減収の13億1,400万円となる予想です。

- ・ 「受託」は、再生医療等製品関連受託、遺伝子解析/検査関連受託ともに増加し、前期比4億5,100万円(5.5%)増収の86億5,200万円となる予想です。
- ・ 「遺伝子医療」は、レトロネクチン®を含むAM製品が、前期比1億円(3.8%)増収の27億4,000万円となる予想です。
- ・ 以上により、売上高は455億円となり、前期比▲326億4,200円(▲41.8%)の減収となる予想です。

(営業利益)

- ・ 売上総利益の減益に加え、研究開発費等の販売費一般管理費が増加するため、営業利益は前期比▲175億4,100万円(▲85.4%)減益の30億円となる予想です。

(2) 前回(5月11日)予想比

- ・ 「試薬」は、海外(米国・中国・欧州)の事業環境が厳しく影響を受け、前回予想を▲55億6,100万円(▲14.5%)下回る見込みです。
- ・ 「機器」は、「試薬」と同様に海外の事業環境が厳しく、前回予想を▲7億500万円(▲34.9%)下回る見込みです。
- ・ 「受託」は、再生医療等製品関連受託は前回予想を上回るものの、遺伝子解析/検査関連受託において遺伝子解析受託の価格下落等により前回予想を下回る見込みです。全体では、前回予想を▲12億6,100万円(▲12.7%)下回る見込みです。
- ・ 「遺伝子医療」は、AM製品を中心に前回予想を▲2億7,200万円(▲9.0%)下回る見込みです。
- ・ 以上により、売上高は前回予想を▲78億円(▲14.6%)下回る見込みです。

(営業利益)

- ・ 販売費一般管理費の削減に努めるものの、売上総利益の減益の効果が大きく、営業利益は、前回予想を▲50億円(▲62.5%)下回る見込みです。

(期末配当予想)

- ・ 通期業績は下方修正しましたが、期末配当予想は、期初(5月11日)に公表した1株あたり17円を据え置きます。

3. 試薬事業の状況について

- ・ 新型コロナウイルス検査関連試薬は、上期、通期ともに前期から減収もしくは減収予想です。一方、一般研究用試薬は、上期、通期は増収もしくは増収予想です。
- ・ 一般研究用試薬の2024年3月期通期(予想)については、上述の通り、事業環境が厳しいため、前回予想(5月11日)の売上高を380億円から315億円に引き下げしました。

(参考: 試薬売上高)

(億円)	2023年3月期		2024年3月期	
	上期	通期	上期	通期(予想)
一般研究用試薬	137	300	140	315
新型コロナウイルス 検査関連試薬	138	359	8	12
合計	275	659	149	327

5. その他トピックス

(遺伝子・細胞プロセッシングセンターの建設について)

- ・ 滋賀県草津市の本社地区に mRNA ワクチン原薬や mRNA 製造用酵素等の部素材を製造する遺伝子・細胞プロセッシングセンター3号棟の建設を開始します。
- ・ 本施設は、経済産業省「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」による補助金と自己資金の拠出により建設予定です。
- ・ デュアルユース型施設として、感染症パンデミック発生時(有事)には、国の指示に基づきウイルスベクターワクチン原薬、mRNA ワクチン原薬および mRNA 製造用酵素等の部素材を製造します。平時には、遺伝子治療用ベクター、核酸医薬品等を製造する CDMO 事業に加え、遺伝子治療薬の製造補助剤等の製造や再生・細胞医療・遺伝子治療に関連する自社の創薬事業を行う予定です。

(研究開発等の進捗)

- ・ 医療・ライフサイエンス分野における試薬・機器の開発販売でウシオ電機株式会社と包括的業務提携をしました。今後、両社の技術を融合させ、機器・試薬とその消耗品までを含めた統合システムの開発を進めます。ウシオ電機は機器および周辺装置等の開発・製造を、当社はシステムで使用するための専用試薬の開発・製造を担う予定です。
- ・ 独自に開発を進める遺伝子治療用 AAV (アデノ随伴ウイルス) ベクター「CereAAV™」について、カニクイザルを用いた試験において、脳に効率よく遺伝子を導入できることを確認しました。CereAAV™ はこれまで、マウスおよびマーモセットの脳、マウス網膜内の細胞に対し、高い遺伝子導入効率を示すことが確認されています。今回、よりヒトに近いカニクイザル試験を行い、既存の遺伝子治療薬で使用されている AAV9 と比較し、CereAAV™ は脳の各部位において最大 25 倍高い遺伝子導入効率を示すことを確認しました。第 29 回日本遺伝子・細胞治療学会(2023年9月11日-13日)において本成果を報告しました。

- ・ 順天堂大学医学部耳鼻咽喉科学講座 神谷和作准教授との共同研究により、内耳組織へ高い遺伝子導入効率を示すアデノ随伴ウイルス(AAV) 改変体ベクターを開発しました。マウス内耳培養組織へ感染させた場合、難聴治療に対する遺伝子治療の標的となる内耳細胞に対して、既存の AAV2 ベクターに比べて 10 倍以上高い遺伝子導入効率を確認しました。進行中の難聴モデルマウスへの動物実験では聴力回復傾向が確認されています。BioJapan 2023(2023 年 10 月 11-13 日)において本成果を報告しました。
- ・ CAR 遺伝子治療で用いられる遺伝子導入 T 細胞(CAR-T 細胞)を、従来(平均 9 日間)より短期間(2 日間)で製造する方法を確立し、この CAR-T 細胞が従来の製造法で作製した CAR-T 細胞よりもがん細胞に対して高い細胞傷害活性を発揮することを確認し、第 29 回日本遺伝子・細胞治療学会(2023 年 9 月 11 日-13 日)において報告しました。

以上